

允恭天皇・安康天皇

【之】

01

爰群卿議之

爰に群卿議(はか)りて

然雄朝津間稚子宿禰皇子長之仁孝

然るに雄朝津間稚子宿禰皇子、長(このかみ)

にして仁孝まします

由是先皇責之

是に由りて先皇責めて

其長生之

其れ長く生くとも

而輕之

輕したまふ

臣伏計之

臣伏して計るに

願大王聽之

願はくは、大王聽(ゆる)したまへ

02

仍啓之

仍りて啓して

位空之

位空しくして

羣臣百寮愁之

羣臣百寮愁へて

於是大中姫命惶之

是に大中姫命惶(かしこ)りて

不知退而侍之

退かむことを知らずして侍ひたまふ

皇子顧之驚

皇子顧みて驚く

03

時鬪鷄国造從傍徑行之

時に鬪鷄国造、傍の徑より行く

嘲之

嘲(あざけ)りて

時皇后結之意裏乘馬者辭无禮

時に皇后、意の裏に、馬に乗れる者の辭の禮  
无きを結びたまひて

即謂之

即ち謂りて

05

天皇歡之

天皇歡びたまひて

06

羣臣議定奏之

羣臣、議(はか)り定めて奏せ

07

或帝皇之裔或異之天降

或いは帝皇の裔、或いは異(あや)しくて天降  
る

07

是以故詐者愕然之

是を以て、故に詐(いつは)る者は愕然(お)ぢて

爰に烏賦津使主、命を承り退(まか)る

天皇命以召之

天皇、命を以て召す

08

唯玉田宿禰無之

唯玉田宿禰のみ無(はべらす)

若不將來必罪之

若し將(い)て来ずは必ず罪せむ

天皇聞之

天皇聞しめて

則從烏賦津使主而来之

則ち烏賦津使主に從ひて来る

甲端自衣中出之

甲の端、衣の中より出でたり

11

天皇大歡之

天皇大いに歡(よろこ)びたまひて

而捕之乃誅

捕へて乃ち誅す

皇后聞之恨

皇后聞しめて恨む

10

天皇親之撫琴

天皇親ら琴撫(ひ)きたまふ

今妾産之

今妾産みて

皇后惶之

皇后、惶(かしこま)りたまひて

乃自出之

乃ち自ら出でて

10

其艷色徹衣而晁之

其の艶しき色、衣より徹(とほ)りて晁(て)れり

天皇聞之

天皇聞しめて

皇后知之

皇后知しめて

12

而歌之

而して歌して

汝自往之

汝自ら往りて

皇后聞之

皇后聞しめて

爰烏賦津使主承命退之

16

是後希有之幸焉

是の後に、希有(まれ)に幸(いでま)す

17

衣通郎姫歌之  
衣通郎姫歌して

朕心異愛之  
朕が心に異に愛し

18

嶋神崇之  
嶋神崇(たた)りて

差須庾之出  
差須庾(ややしばらく)ありて出でて

亦入而探之  
亦た入りて探(かず)く

爰男狹磯抱大蝮而泛出之  
爰に男狹磯大蝮を抱きて泛(うか)び出でたり

乃祠嶋神而獵之  
乃ち嶋の神を祠り獵(かり)したまふ

唯悲男狹磯入海死之  
唯男狹磯が海に入りて死(みまか)りしことを  
のみ悲しみ

其墓猶今存之  
其の墓、猶今まで存(うせず)

19

畏有罪而默之  
罪有ることを畏れ默(もだ)あり

仍歌之  
仍りて歌して

19

天皇異之  
天皇これを異びたまひて

20

于時太子歌之  
時に太子歌して

又歌之  
又歌して

21

而驚愁之  
驚き愁いて

則皆素服之  
則ち皆素服(あさきぬ)きる

22

還之  
還(かえりまか)る

顧之  
顧みて

聞是辭而疑之  
是の辭を聞きて、疑いて

乃返之  
乃ち返りて

時新羅使者啓之  
時に新羅の使者啓して

皆原之  
皆原(ゆる)したまふ

25  
冬十月葬禮畢之  
冬十月、葬禮畢りぬ

國人謗之  
國人謗りまつる

乃出之  
乃ち出でて

則圍之  
則ち圍む

出門而迎之  
門を出でて迎へたてまつる

穴穂皇子歌之  
穴穂皇子歌して

大前宿禰答歌之  
大前宿禰答歌(かへしうた)して

26  
加以情性拙之  
加以(また)、情性拙し

27  
然死之命也  
然れども死せなむは、命なり

是甚之大恩也  
是甚(にへさ)に大恩なり

28  
則詐之奏天皇  
則ち詐りて天皇に奏す

則大怒之  
則ち大いに怒りて

而殺之  
殺しつ

吾君無罪以死之悲乎  
吾が君罪無くして死にたまふこと悲しきかな

吾父子三人生事之  
吾が父子三人生きてまししときに事(つか)へまつり

即自刎之  
即ち自ら刎(くびは)ねて

【者】  
06  
陛下拳失正枉而定氏姓者  
陛下、失を拳げ枉(まが)れるを正して、氏姓を  
定めたまはば

10  
當時風俗於宴會者  
當時の風俗、宴會(うたげ)たまふに